

## 冬合宿 八ヶ岳「硫黄岳・赤岳」

◆日程 2016年12月29日(木)～12月31日(土)

◆メンバー L：須田、雫、河野、富田

冬合宿は昨年八ヶ岳で行っており阿弥陀岳北陵メインとして組んだ。今回の当初計画は南アルプス北岳を計画していたが新人富田さんメンバーに入り八ヶ岳冬山初級ルート硫黄岳と八ヶ岳主峰赤岳を組む。富田さんは事前の冬山トレニン谷川岳、富士山と参加しており冬山本番万全の備えとし参加する。

### 12月29日(木) 天候：晴れ

12月28日22時相鉄線瀬谷駅に集合。河野さんのデリカにて目的地道の駅「小淵沢」へ向かう。道はすいており順調。到着後テントを張り寒いので早々にシュラフにもぐりこむ。他に大きいテント1張と2人テント1張りあった。きれいなトイレ有り駐車スペースも広く良い道の駅である。満天の星空を観る。

12月29日テントをたたみ出発。天気良く快晴、遠く甲斐駒ヶ岳、北岳が綺麗に見える。八ヶ岳も青空の中にくっきり見える。美濃戸口の駐車場は車がいっぱいだ。デリカを四輪駆動に変え美濃戸山荘前まで林道を進む。楽しんだ。美濃戸山荘周辺には雪はほとんど無く温かい。駐車場はほぼ満車であった。



美濃戸山荘でお茶を頂き南沢を行者小屋に向けて出発する。雪はまだない。赤嶽神社が祀っている祠辺りから雪が出てくるがほとんどない。沢も凍っている所もあるが水が流れている所もある。今回の荷物は例年より皆小さく感じる最新装備が軽量コンパクトになったおかげか快適だ。行者小屋近くなると八ヶ岳の峰々、大同心が迫ってくる。行者小屋テント場にはテントの数はまだ少ない。良い場所確保できテント張る。雪は昨年より少し多いくらいか30センチほど。テント張り装備つけさっそく硫黄岳に向かい出発。残念ながら河野さんは体調良くないとのことでテントキーパー願います。

中山乗越を過ぎ赤岳鉱泉にてアイスクャンデーのアイスクライミング見て硫黄岳への登山道に入る。大同心沢、ジョウゴ沢を過ぎる、踏み跡はしっかりついている。樹林帯の中は静まりかえっていて幻想的だ。赤岩ノ頭までは快適な歩きだ。その上の森林限界からは吹きさらしの稜線となり体感温度は一変して寒くなるが八ヶ岳全貌が望め最高の景色が広がる。風が強いが例年の風ほどなく耐風姿勢を取りながら山頂目指す。風はいつもより弱い寒い。硫黄岳(2742m)頂上からは八ヶ岳全貌、北八ヶ岳、蓼科山が綺麗に望める。

早々に下山する。程よく着いた雪で下山はあっという間に下っていく。赤岳鉱泉からの中山乗越までの登りはさすがに応えた。河野さんの待っているテントには暗くなるまえに着けた。

夕食は富田さんの持ってきた山東の「水餃子」から始まり富田さんお薦めのスパークリング

ワインで乾杯する。鍋も頂きお腹いっぱいになるが宴会は続く最高に気持ち良くなったところでシュラフに入る。夜アクシデントもあるが・・・。

空は雲が出てきているが明日も天気は良くなりそうだ。

(記：雫)

冬合宿：初日から硫黄岳登頂迄の感想 富田

夜、河野さんのデリカで出発。小淵沢の道の駅の駐車場にテントを張り仮眠。まだ山の上にいる訳でもないのに外はかなり寒かった。そんな寒い中、先輩達のテント張りの手際良さは凄いと思った。朝になって起きてコンビニで行動食を買い、河野さんの運転で美濃戸山荘近くの駐車場に車を止める。ここで少し準備体操をして出発。少し歩いて美濃戸山荘前で無料のお茶をいただく。汽車の形をした囲炉裏で八ヶ岳の牛乳が暖められていた。行者小屋迄暫く凍った川や橋などを渡り美し景色の中歩く。お昼ちょっと前に行者小屋に到着してテントを張る。河野さんが少し体調を崩されていた為、テントキープしていただいた。

昼頃、行者小屋を出発。硫黄岳を目指す。お天気が良く歩き易い。途中赤岳鉱泉にて人口のアイスクライミング練習場があった。ゆっくりと歩き進むうちに雫さん、須田さんが「もう少しで森林限界を超えると強風が吹くので少し休憩」と言われた。

少し休憩してバラクラバを被ったほうが良いとのことで被った。少し歩くと本当に厳しい強風が来た。これでも今年は風が弱いほうとのことであった。頂上付近で一方向に風が吹いた為に出来た樹氷のようなものがあった。雫さんが「これはエビの尻尾って言うんだよ」と教えてくれた。確かにエビのシッポのように見えた。少し歩くと硫黄岳頂上付近へ到着。風が強くて写真はほとんど撮れなかった。15:00頃、頂上に到着してあとはピストンでテントへ下山する。行者小屋に到着する頃には辺りはすっかり暗くなっていた。

河野さんがビールを買って待っていて下さった。あとは皆で須田シェフが作る絶品鍋や水餃子などと一緒に美味しいお酒をいただいた。最高の仲間と最高の登山後の楽しい夜であった。



夜油断をしてシュラフのジッパを

閉めないまま寝てしまったら夜中にシュラフを剥いでしまいシュラフカバーだけに包まり寝ていた。途中で恐ろしく寒くなり手探りでシュラフを探したがシュラフの入り口が分からずシュラフを抱き抱えて眠った。明け方になりようやくシュラフの入り口を見つけることが出来たが、ほぼ眠れずであった。寝る前には必ずシュラフのジッパを閉めて寝ないとダメだと思った。

(記：富田)

CT：8:00 美濃戸山荘着 8:20 出発-11:30 行者小屋到着-硫黄岳山頂 15:00 着

## 12月30日(金) 天候:

2日目の朝は6時半頃起床。今日は赤岳を空身でピストンするだけなので、急ぐ必要はない。河野さんは31日に仕事があるため独り早めに下山する。テント側で大きく手を振って我々3人を見送ってくれた。赤岳に向かうルートはしっかりとトレースが付いていて、雪も締まっていて歩きやすかった。雪山特有の静けさの中、アイゼンで踏みしめるミシッ、ミシッという音だけが聞こえる。今日も朝から天気が良く、頂上からの展望が楽しみだ。

文三郎の分岐にかかるとやはりそれなりに風が強く、目出し帽やゴーグルをちゃんと装着しているか確認して進む。頂上直下の岩場や鎖場を慎重に通過し、最後の上りを越えると赤岳頂上に到着した。この時期としては信じられないくらいの無風快晴で、周りの山々が一望できた。3人で記念撮影をしてから岩陰で少し休憩を取った。下りは念のため富田さんとロープを繋ぎ、コンティニューアスで降りた。8mmの細引きを使い、3~4m位の距離を取って同時に降りる。時々富田さんの歩行スピードが急に速くなるので、一定のスピードでゆっくり下るように指示し、注意して下りる。

昼ごろには行者小屋に到着したので、小屋の前のテーブルで宴会をする。赤岳、阿弥陀岳などを眼前に見上げながらの宴会は誠に贅沢極まりない。3時近くになって寒くなってきたら小屋の中へ移動して、おでんなどをつまみながら楽しい時間を過ごした。夜になってテントの外に出て空を見上げると、一面満天の星空だった。(記:須田)

CT: 8:30 行者小屋~9:50 文三郎分岐~10:20 赤岳~12:00 行者小屋

## 12月31日(土) 天候:

今日は大晦日。今年も何とか年内に無事帰宅できそうだ。テントを撤収して下山開始。

美濃戸口に着いてまもなくバスが来る。茅野駅に着いて特急あずさの切符を買ってからいつもの蕎麦屋に行く。さすがに大晦日なので蕎麦屋は満席だったが、運良くすぐにカウンター席が空いた。馬刺しをつまみにして乾杯し、年越しそばもたぐる。去年も冬合宿の帰りにこの蕎麦屋で打ち上げをした。ここの馬刺しは厚みがありながらもやわらかくて美味しい。冬合宿の充実感に浸りながら、来年はどこに登ろうか、などと考えていた。(記:須田)

CT: 7:30 行者小屋~9:05 美濃戸山荘~10:00 美濃戸口

## 2016年冬合宿(八ヶ岳)を終えて

期間 2016年12月29日~30日(夜行1泊2日)

相鉄線瀬谷駅南口に集合してもらい我が愛車デリカスターワゴンエクシードに大型ザックを積み零会長、須田チーフ、新人の富田君を乗せ一路八ヶ岳に向かって出発する。保土ヶ谷バイパス、東名、圏央道、中央高速と通り小淵沢ICで降り道の駅小淵沢で仮眠する。翌日は美濃戸山荘まで車で入る、駐車場には車がそれなりに止まっていた。北沢を歩き行者小屋に到着するころには足がつかないしひめいをあげた。もうこれ以上は行動できないと思い硫黄岳への行動は辞退とする。前日の寝不足が影響したのと年齢、体力強化不足などが考えられる。体調不良であった。翌日は私のみ下山となったが結果的にはちょうどよかったのかもしれない。(記:河野)



12/29 デリカ前での準備体操



美濃戸山荘にて



汽車の形をした囲炉裏



凍る川



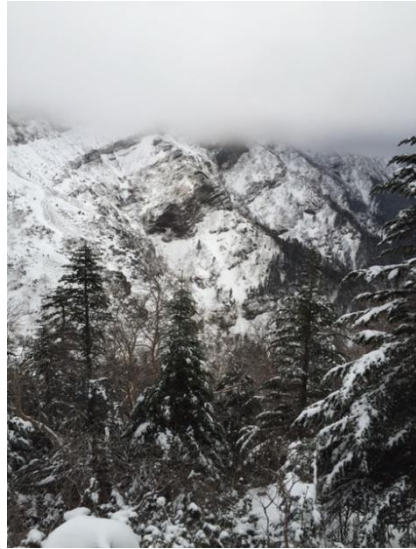
美濃戸山荘にて



巨大なリュックを背負う須田 CL



足跡のない雪面



硫黄岳山頂付近からの眺め



赤岳鉱泉 アイスクライミング



12/30 行者小屋近辺でテント



硫黄岳山頂にて (2760M)



行者小屋近辺テント



横岳



赤岳への登り



赤岳



北岳、甲斐駒ヶ岳、仙丈岳



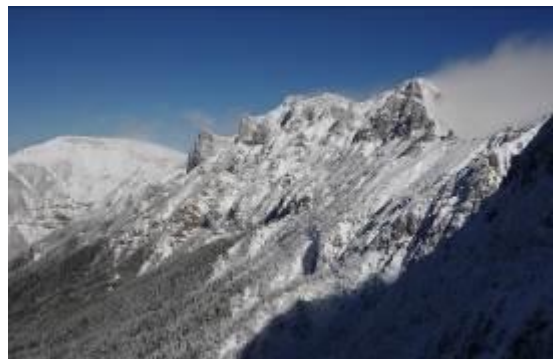
テントの前にて河野さん



コンテニューアスで下山, 須田 CL と 富田



中岳と阿弥陀岳



横岳と硫黄岳



横岳バックに



夕日に染まる大同心と小同心



硫黄岳バックに



行者小屋に灯がともる



県警ヘリ出動（自力下山大事に至らず）



行者小屋の番長



夕日を浴びる赤岳



たっぷりの日差しを浴びて至福の一時

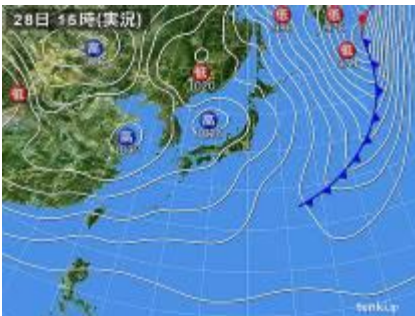
## 【気象】

12月28日(水)

日本付近は冬型の気圧配置になった。最高気温は全国的に平年より高め。



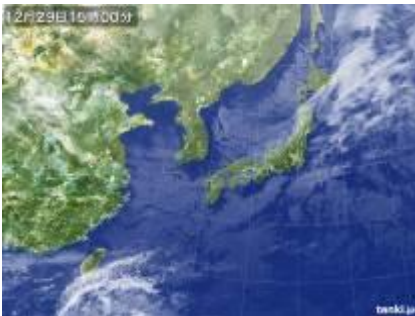
↑ 気象衛星



↑ 天気図

12月29日(木)

寒気が流れ込み寒い一日となった。南岸低気圧が発生するが天気には大きな崩れは無し。夜に雲が発生放射冷却なく厳しい冷え込みなし。



↑ 気象衛星



↑ 天気図

12月30日(金)

朝方まで雲、ガスがかかっていたが日が登ると青空になり眩しい位の日が差す。風も突風はあるが例年より弱い。



↑ 気象衛星



↑ 天気図

12月31日(土)

西高東低の気圧配置緩み風も無く温かい日に恵まれる。2016年大晦日は素晴らしい天気となる。



↑ 気象衛星



↑ 天気図

(記: 雫)